

令和7年度  
社会教育施設の整備・運営等に関する  
オンラインセミナー（第3回）

2026年2月18日

文部科学省 社会教育デジタル活用等推進事業 事務局  
(株式会社長大 スマートシティ事業部)

# 本日のプログラム

## ■開会、セミナー趣旨説明

## ■文部科学省あいさつ、事業趣旨説明

## ■若狭町の事業紹介

## ■講師による研修

(株式会社長大 まちづくり事業部長 ・ 国土交通省PPPサポーター 水嶋 啓 氏)

## ■トークセッション

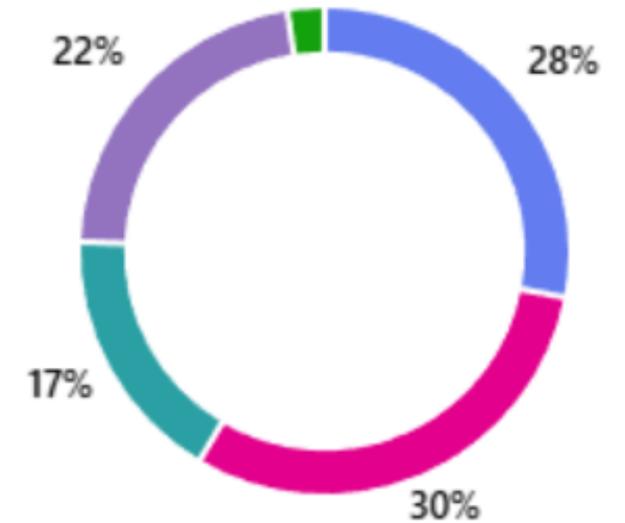
(若狭町 教育委員会事務局 局長補佐 吉田 明史 氏)

(株式会社長大 まちづくり事業部長 ・ 国土交通省PPPサポーター 水嶋 啓 氏)

# 第2回オンラインセミナーでの回答

次回以降のセミナーで取り上げてほしい内容があればお答えください。（複数回答可）

● 1. 今後の社会教育施設のあり方について	23
● 2. 補助金等の制度について	25
● 3. デジタル化の進め方について	14
● 4. 民間企業との連携方法について	18
● その他	2



# 民間企業との連携方法について

# 民間企業との連携方法

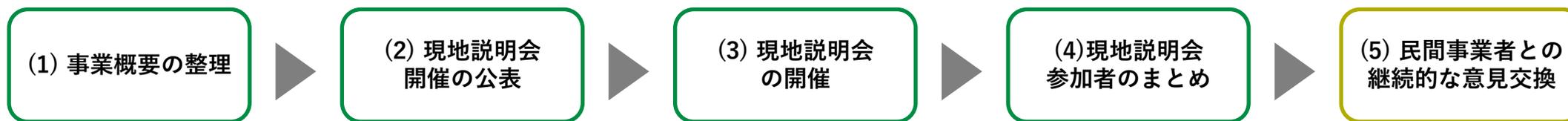
民間企業とFace to Faceで話せる“場”、“機会”の創出が重要であり、オープン型サウンディングや現地説明会の開催が考えられます。

## 1. オープン型サウンディングの実施



★複数の民間企業からの意見聴取が可能！

## 2. 現地説明会の開催



★複数の民間企業へ自治体の取組みを紹介可能！

# 若狭町事業の紹介

# 前提条件

若狭町は、個別相談時点で、老朽化した鳥羽地区の公民館の建て替えを検討していた。相談時点の課題として、財源の確保、PPP/PFIの活用を検討されており、これまでに3度の協議と現地でのWSを通じ、個別案件形成支援を実施してきた。

- 若狭町には8つの地区に、それぞれ公民館が設置されている。
- 第2次若狭町総合計画では、「集落単位での活性化支援」を通じて、人口減少が進む中でも地域コミュニティの維持に取り組むことが明記されており、公民館の果たす役割の重要性が強調されている
- 本施設は単なる公民館の機能にとどまらず、多機能な地域拠点としての整備・運営を目指しており、民間活力を活用することも検討されています。

# 前提条件 | 鳥羽公民館の概要

建物名称	地区名	建築年	供用年数	延床面積	構造	階数
鳥羽公民館	若狭町三田27-17	S52年	48年	361.89	RC造	2



# 前提条件 | 整備候補地

- 整備候補地について以下に示す。整備候補地にはとばっ子保育園が隣接しており、連携の可能性について検討が必要である。



# 前提条件 | 管理運営の現状

対象施設	概要	運営	現地確認した事項等
鳥羽公民館	<p>老朽化が進み、建替えの要望が出ている鳥羽公民館は、利用者の高齢化により、2階の会議スペースは利用が減少している状況にある。一方、1階の生活実習室（調理室）は一定の利用が見られるものの、施設の老朽化が進んでおり、十分に活用されているとは言い難い。今後の再整備にあたっては、整備候補地に隣接するとばっ子保育園と連携した交流スペースの構築が可能か検討する必要がある。また、新たな公民館にはデジタル機能の導入を図り、利便性の向上につなげることが求められる。</p>	<p>直営 (嘱託社員 の雇用)</p>	<p>現地確認を行った際、冬の時期でもあったことから、2階の会議スペースは冷え切っている印象であった。しかし、冬の期間も利用がされているとのことで、伺った際の数日後に落語のイベントを実施するとのことであった。</p>



# ワークショップの目的

## 目的

- 公民館の効率的・効果的な整備・運営に向けて、民間の資金と創意工夫を活用するPPP/PFIの導入を促進していく必要がある。
- そのため、職員、民間企業、町民を含む現地説明会、ワークショップを実施し、PPP/PFIの導入に向けた検討を行う。

## 手法

現地調査及び対面ワークショップ

## 対象

社会教育施設の整備・運営や、社会教育施設を含む公共施設の再配置・まちづくり計画等を担当する自治体職員

## 参加数

26名

# ワークショップ概要

## 実施日

令和7年12月11日（木）

午前 10:30~12:00

① 現地視察（鳥羽公民館・再整備予定地・とばっこ保育）

午後 13:00~15:30

① 開会・主旨説明

② 社会教育施設におけるデジタル活用・PPP/PFI 活用に係る研修

③ ワークショップの進め方の説明

④ 若狭町の事業課題の説明

⑤ グループワーク（官民混成グループ）

⑥ 発表・フィードバック

⑦ アンケート

⑧ 閉会・ネットワーキング



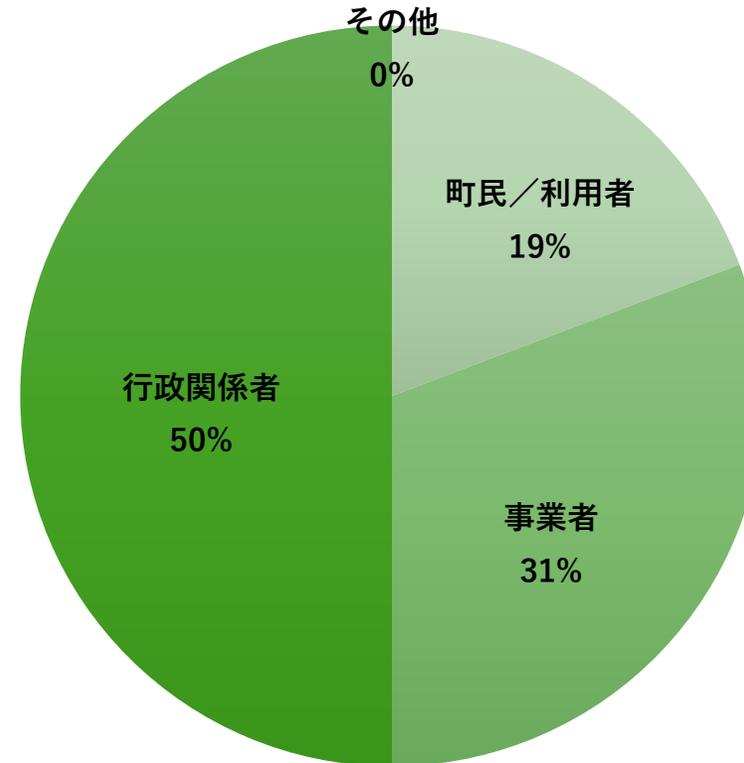
# 1. 本ワークショップの参加区分

当日午後を実施したワークショップには、**合計26名**が参加しました。

参加者の内訳は、**町民・利用者が5名（19%）、事業者が8名（31%）、行政関係者が13名（50%）**でした。

## 本ワークショップの参加区分

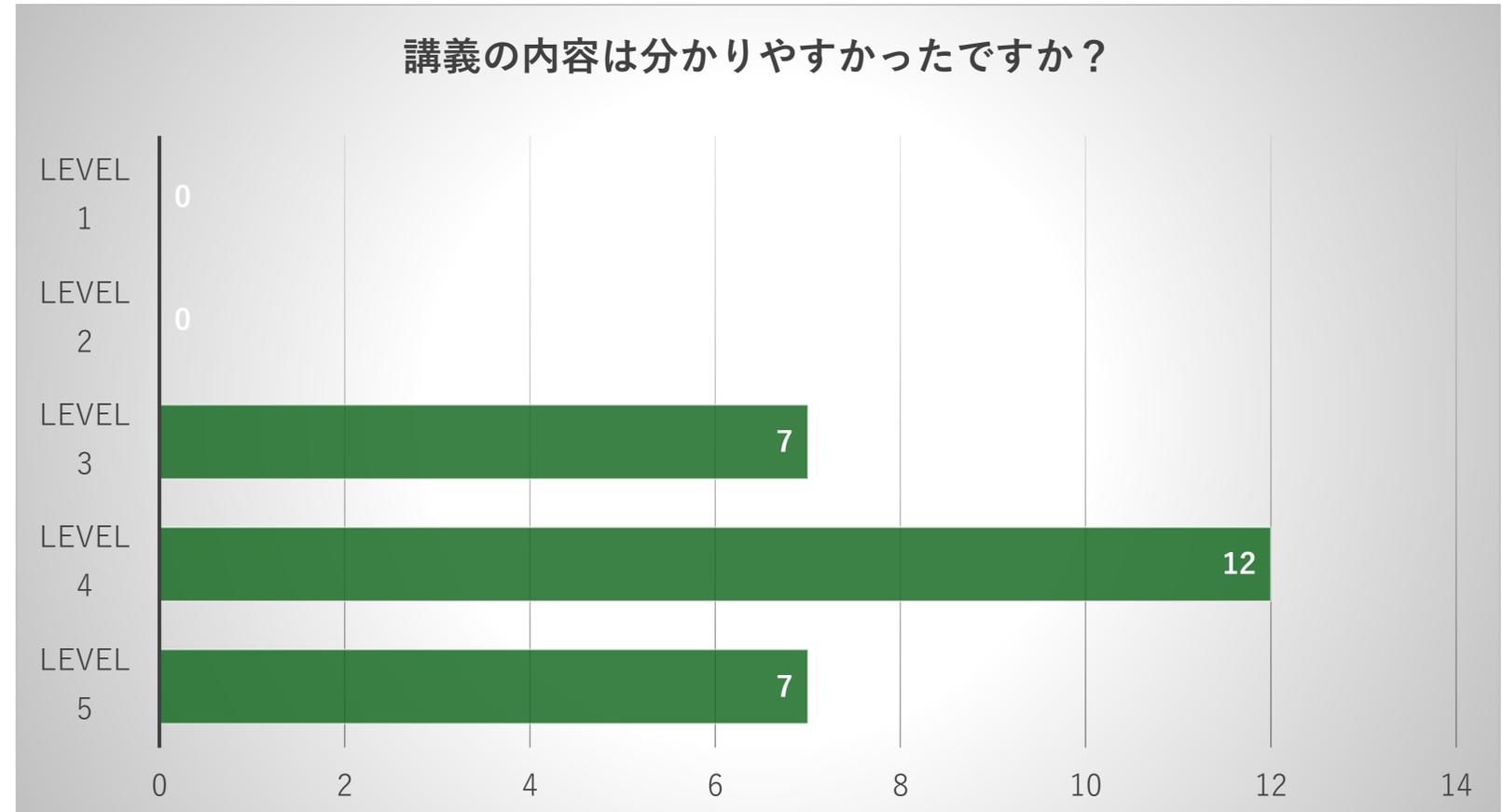
	町民／利用者	5人
	事業者	8人
	行政関係者	13人
	その他	0人



## 2. 講義の内容は分かりやすかったですか？

講義の内容が分かりやすいかどうかの評価では、5段階評価（1が分かりにくい、5が分かりやすい）で、Level 3が7人、Level 4が12人、Level 5が7人でした。平均評価は4.00となり、全体として高く評価されました。

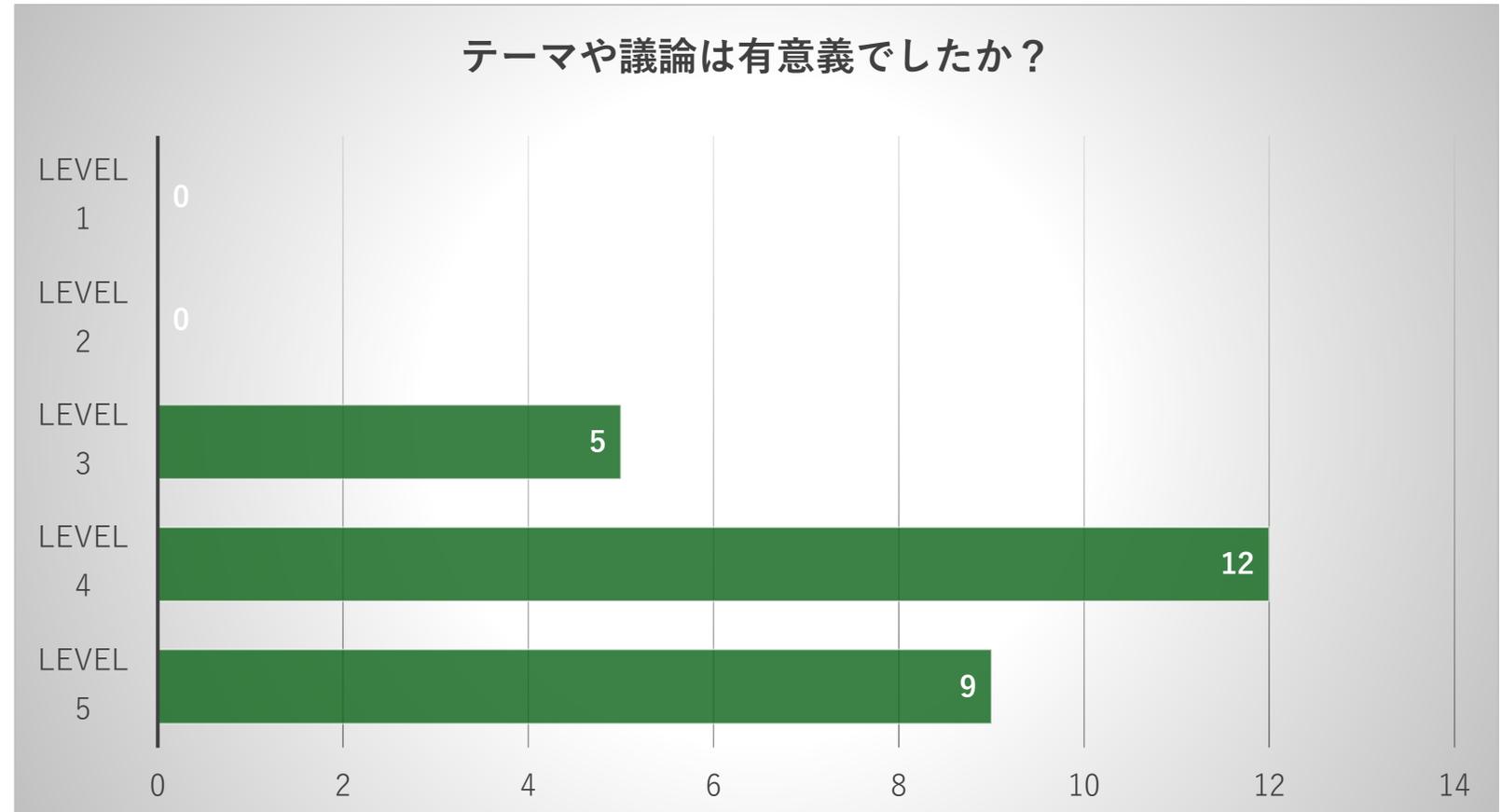
4.00  
平均評価  
★★★★☆



### 3. テーマや議論は有意義でしたか？

テーマや議論は有意義でしたか、という評価では、5段階評価で、Level 3が5人、Level 4が12人、Level 5が9人でした。平均は4.15となり、全体として高く評価されました。

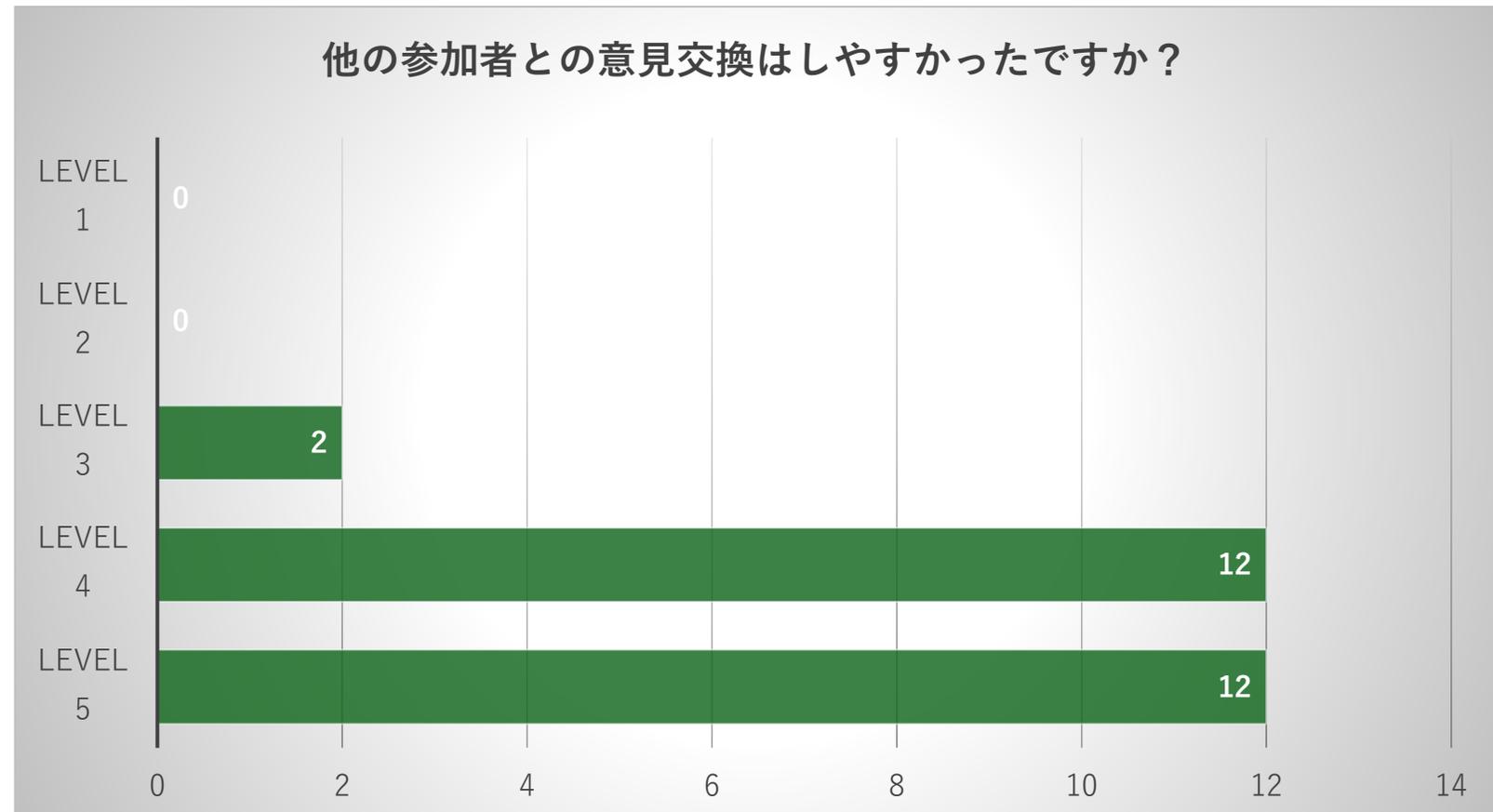
4.15  
平均評価  
★★★★☆



## 4. 他の参加者との意見交換はしやすかったですか？

他の参加者との意見交換はしやすかったですか、という評価では、5段階評価で、Level 3が2人、Level 4が12人、Level 5が12人でした。平均は4.38となり、今回の項目の中で最も高く評価されました。

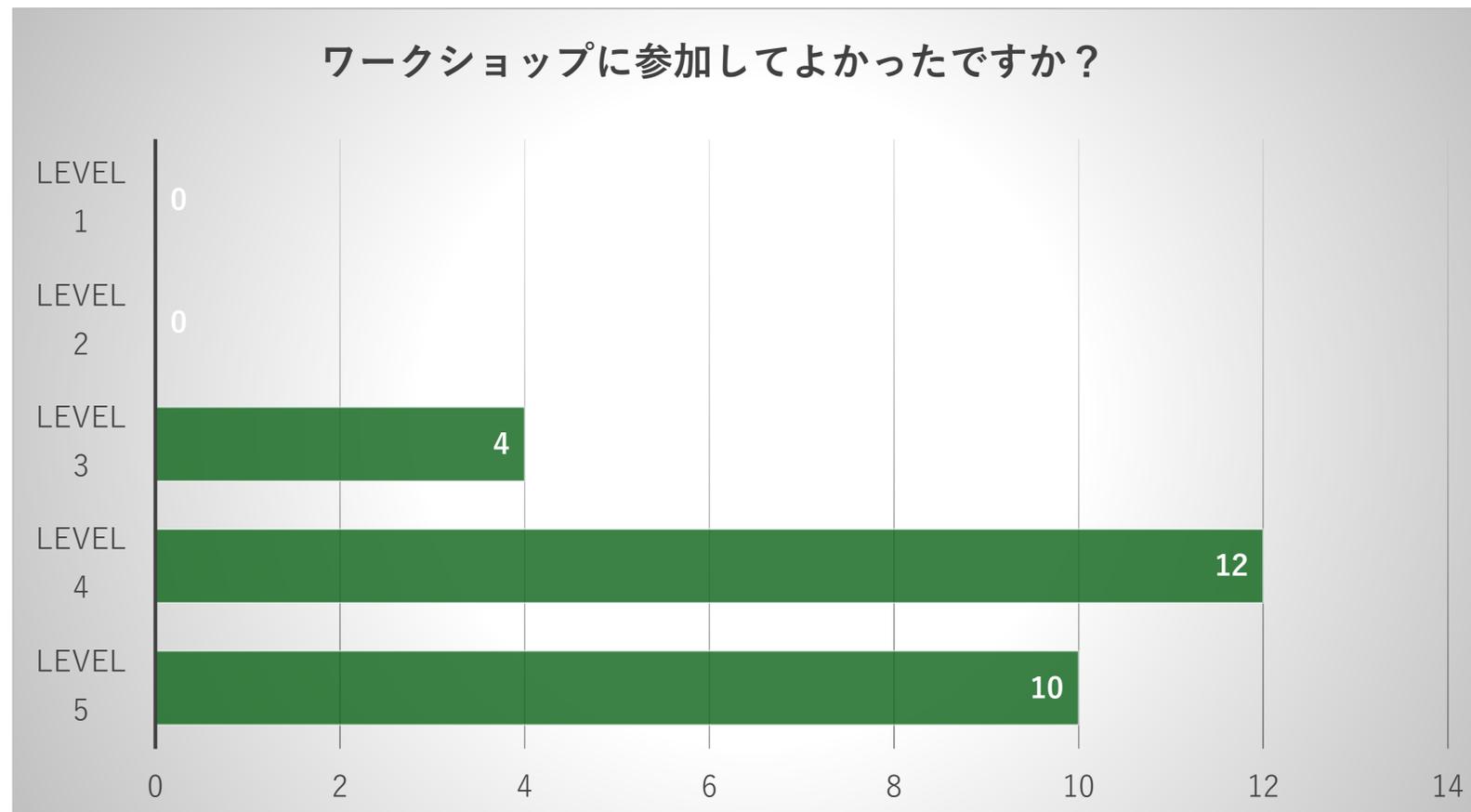
4.38  
平均評価  
★★★★☆



## 5. ワークショップに参加してよかったですか？

ワークショップに参加してよかったですか、という評価では、5段階評価で、Level 3が4人、Level 4が12人、Level 5が100人でした。平均は4.23となり、全体として高く評価されました。

4.23  
平均評価  
★★★★☆

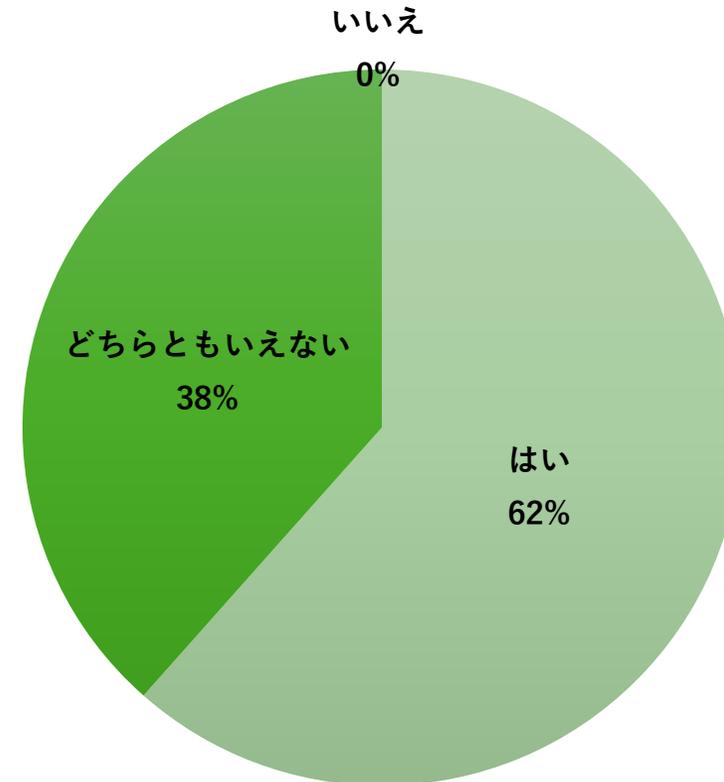


## 6. 次回以降のワークショップにも参加したい と思いますか？

次回以降のワークショップにも参加したいと思いますか、という質問では、16人が「はい」、10人が「どちらともいえない」と答え、誰も「いいえ」とは答えませんでした。全体として、今回のワークショップの評価が高かったことから、多くの参加者が今後も参加したいと思います。

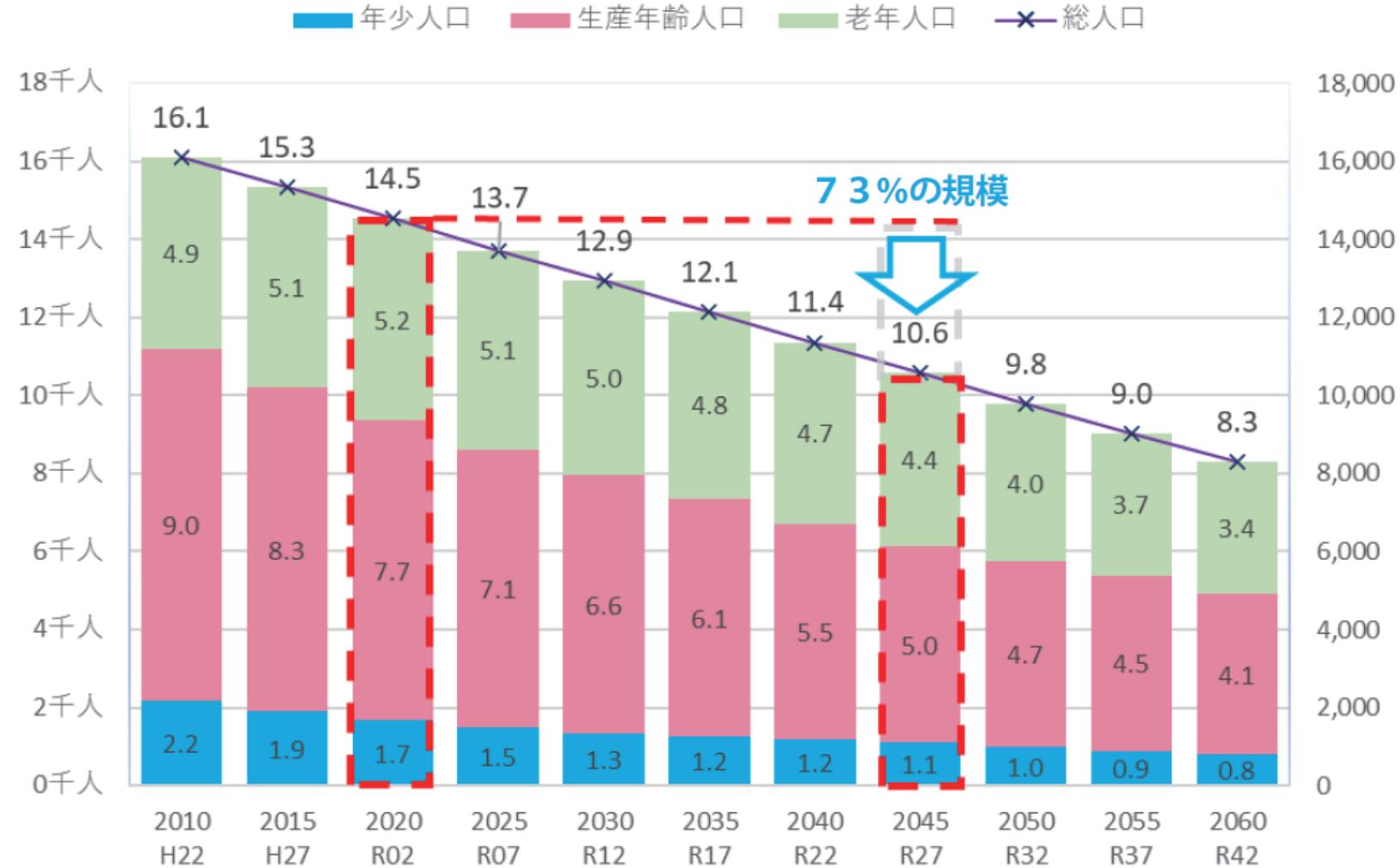
次回以降のワークショップにも参加したいと思いますか？

はい	16人
どちらともいえない	10人
いいえ	0人



- 2020年(令和2年)の国勢調査において、人口は14,003人であり、年齢3区分別割合は年少人口12.3%、生産年齢人口50.9%、老年人口36.4%となっている。国立社会保障・人口問題研究所の将来推計人口では、2040年(令和22年)で9,511人となっており、引き続き減少していくことが予測されています。
- 人口の減少は、町内での消費など経済活動の落ち込みや集落機能の低下、産業の後継者不足、町の活力の減退など様々な悪循環につながる最も大きな課題です。
- 若者の地元定着の促進や新しい仕事の創出による地域経済の活性化、三方五湖をはじめとした地域資源の魅力の発信による関係人口の増加によって地域全体の活力を高めることで、減少する人口問題に立ち向かう必要があります。

# 課題の整理



出典：「若狭町まちづくりプラン 第2次若狭町総合計画 2018～2022」(2019.4)

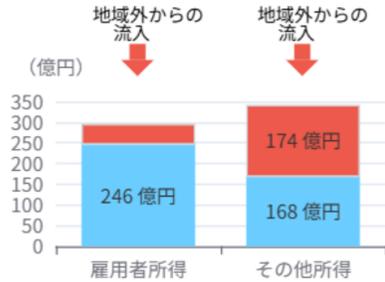
## 地域経済循環分析

2022年  
指定地域:福井県若狭町

地域経済循環率  
**65.0%**

所得への分配  
**415**

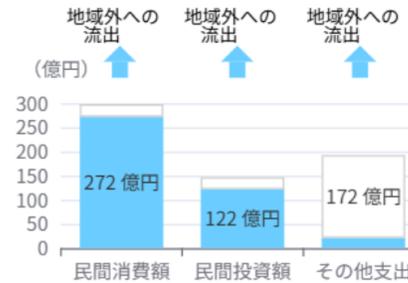
### 分配（所得）



詳細を見る

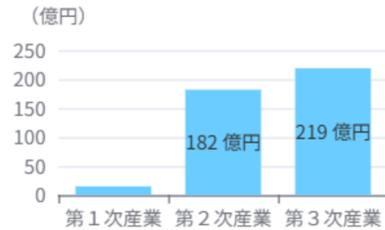
所得からの支出  
**638**

### 支出



詳細を見る

### 生産（付加価値額）



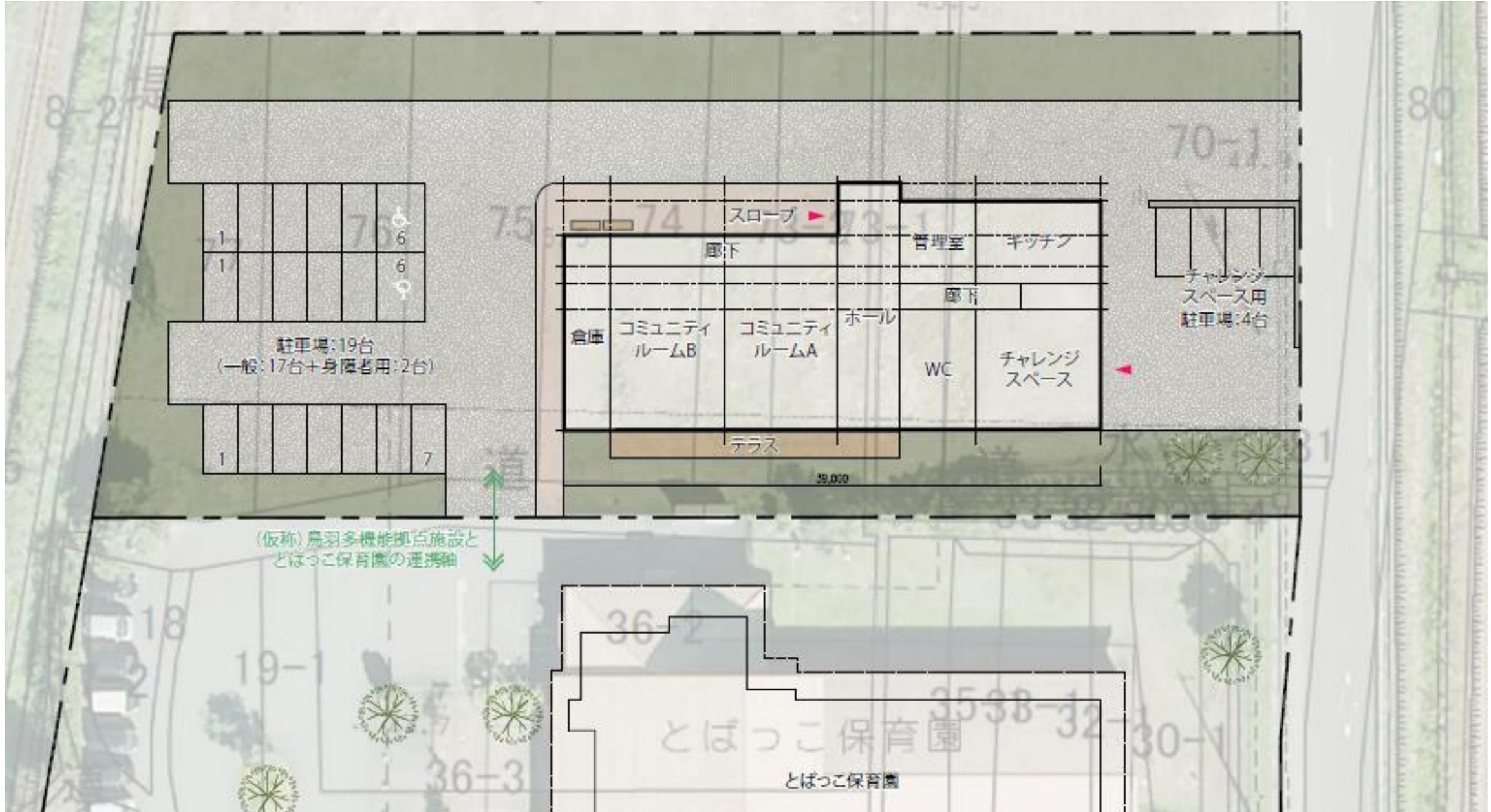
詳細を見る

支出による  
生産への還流  
**415**

# 課題に対応した多機能拠点



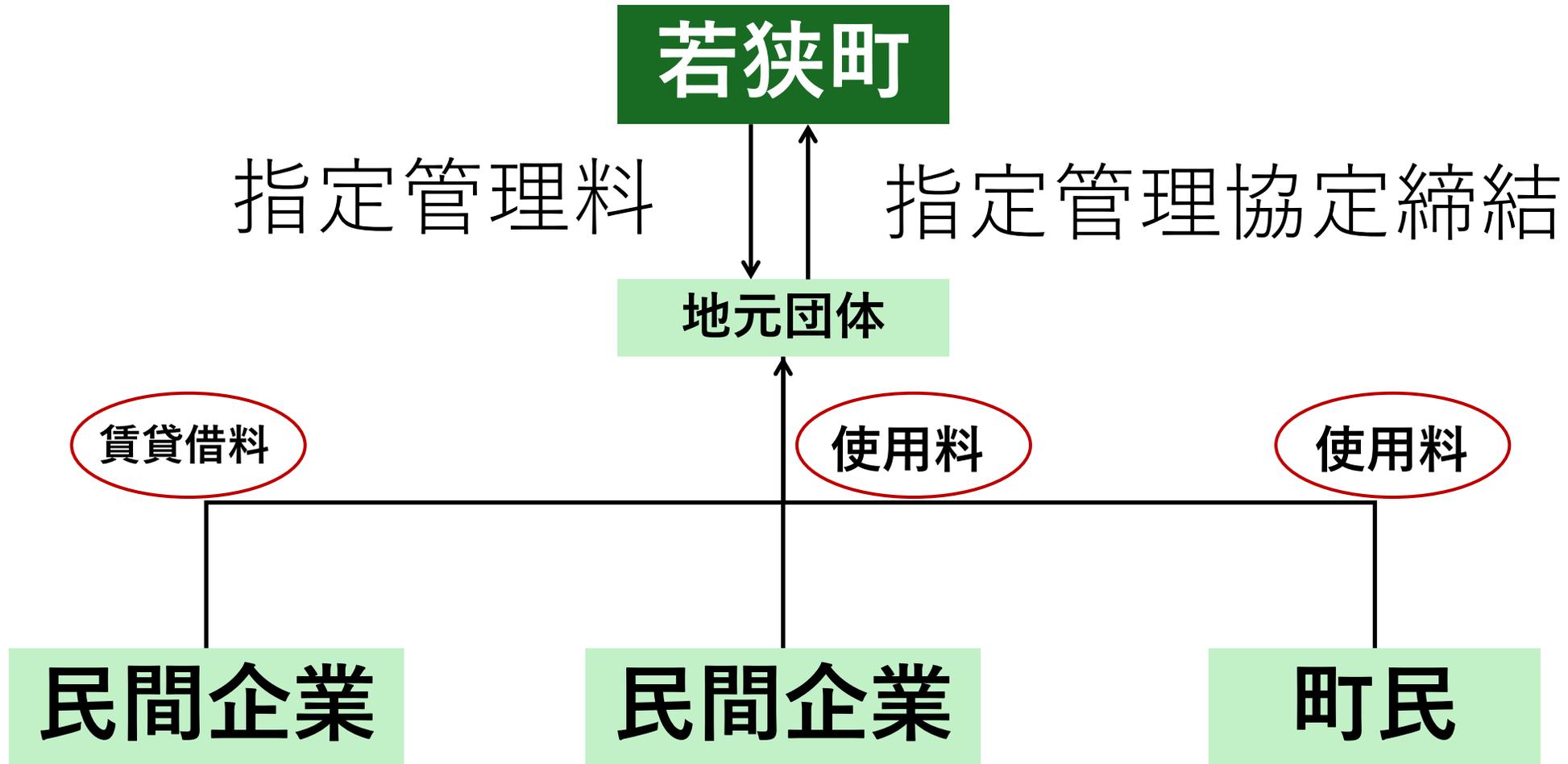
# 課題に対応した多機能拠点



# 課題に対応した多機能拠点

No	導入機能名	想定面積	概要	使用料(案)
1	チャレンジ スペース	約80㎡	若狭町の若者や事業者が新たな事業を起こす際に、安価な使用料で利用できるチャレンジスペース。商品のショールームとしての活用や製品の試食会等の利用を想定する。	1,500円/h
2	キッチン	約55㎡	隣接するチャレンジスペースでの飲食の提供や郷土料理教室等の利用を想定する。若狭町の豊かな食文化を多世代で楽しむためのキッチン。	1,000円/h
3	コミュニティ ルーム(A)(B)	約195㎡	会議、簡単な運動ができる多目的な利用を想定した、子どもから高齢者まで、子育て世代を含めた多世代が交流できるスペース。	600円/h
4	ホール	約80㎡	子どもから高齢者まで、地域住民が自由に立ち寄れるスペース。カフェスペースとしての利用や交流の場所とする。また、地域産業や町の紹介や観光案内スペースも兼ねる。	—
5	倉庫	約45㎡	一時的な防災に必要な資材の保管、住民活動のための物置スペース。	—
6	管理室	約30㎡	施設の利用者の管理や運営を行うためのスペース。	—
7	WC	約50㎡	-	—
合計		約535㎡		

# 課題に対応した多機能拠点の体制イメージ



# トークセッション

# トークテーマ①

ワークショップを実施した「感想」

## PPP（官民連携）で事業を実施する課題

# トークテーマ③

**PPP（官民連携）で事業を実施する課題に対する対応策**

ご清聴ありがとうございました。  
本日のセミナーに関するアンケートは  
2月27日までにご回答いただきたくお願い申し上げます。  
<https://forms.office.com/r/usxBM0SeKF>

